

今後のカブ森をどうしていくか ～林床植生を中心に～

福岡市の事業で造成されたカブトムシの森(以下カブ森)は、落葉広葉樹の森という目標のもと、除間伐を重ね、クヌギ主体の明るい林となっています。年度初めの臨時うん・えー会で、低木や草本は落葉樹林らしい様子になっていないと話題になりました。それで、

- ・低木や草本はどのようにありうるのか？
- ・そのためにどのような作業が必要・可能なのか？

を考えたく、勉強会を開催しました。

【プログラム】

とき 2014年10月5日(日) 9時半～14時半

午前 イン트로ダクション

カブトムシの森見学

午後 ワークショップ

講師 須田隆一氏 (福岡県保健環境研究所)



1. イン트로ダクション

- ・カブ森の目標について(鎌田代表)
- ・森会の歴史とカブ森での作業(作業世話役静間)
- ・過去勉強会のまとめ(柴戸)
- ・観察資源としてのカブトムシの森(小川 R)

センターはカブ森を、市民の自然への導入の森として位置づけ、森会には、市民へのつなぎ手であることを期待している。

- ・福岡県の里山林とは(講師)

人里周辺の林地を里山(林)といい、人の手が入った森である二次林に代表される。カブ森が落葉樹二次林の森をめざすならば、高木から草本までの管理が必要。昔は、農業や生活のた

め、管理作業が行われた。現代のボランティア団体では、目標と照らし合わせ、可能な作業頻度に応じた管理内容を選択することも必要。



2. 現地見学

静間さんが作業世話役として課題と感ずる点について話し、先生から解説やコメントを頂きながら見学しました。(静間さん：静 須田先生：須)

<C地区>

静：林床は人為的に誘導できるか？

須：目標と管理の頻度を考えること。現在は、春のスミレが少ない。落ち葉かきをしないとスミレ類が出る貧栄養の林床にならない。落葉樹の林床植物が少ない。落ち葉の堆積が多すぎるためと思う。フデリンドウが出るというが、この中でも裸地的環境に出ているはず。

<B地区>

静：ヤブツバキのあとに何をいれるか。木陰の親水域を好む 落葉広葉樹かなにかだろうか？

須：ヤブツバキを含む複層林にする、タブノキを伐り明るくするなどの方策もある。湿った環境を好む木本はホオノキ、ミズキなど。ここはクマノミズキがある。以前の伐採後、いち早く出たのが残ったのだろう。谷沿いに見られる樹木という程度で、あまり水辺を意識しなくていいのでは。

<A 地区>

静：湿地をどうするか？

須： 湿地管理は難しい、里山の 5 倍大変。

A 地区には照葉樹林の林床に多く見られるヤブコウジ、フユイチゴが目立つ。

観察小屋下、クヌギ調査区等が、乾性環境になりやすい。広くはない A 地区の中だが、湿度などの環境の差異を意識し、森のありようをモザイク状に考え、管理内容や頻度を分けてよいのかも。

試行錯誤で部分的に落ち葉をかいて確かめるなど。木本では二次林の木であるリョウブ、ホオノキは残してよいのかも。

3.ワークショップ

3 班にわかれ班の中で、「これからのカブ森の林床」というお題で意見交換。内容をそれぞれ発表しました。ふたつの方向性が出ました。

- 落葉樹らしい花や実が見られる林床に。
- 自然の流れにまかせる。高木の目標があり、それを達成する。林床については、間伐の結果、自然の流れにまかせる。

関連して質疑を行いました。

Q. 《 間伐と林床について 》

- ・間伐だけして林床は結果に任せたら種数はどれだけ増えるか？
- ・間伐だけで、種数は増えないのか？

A. 今は階層構造が貧弱でクヌギ人工林のようだ。落葉樹二次林にするなら、低木から下草まで面倒をみる必要がある。間伐だけでももう少し種数が増えるかと思ったが増えていない。現在の林床は栄養が高く、畑雑草が多い。

Q. 《 具体的な目標について 》

- ・森の外から移入してもいいのか？
- ・林床植物の名前を具体的に挙げるのが難しい。

A. カブ森にありえる落葉樹らしい草本の例

春 ミツバツチグリ、スミレ類、キランソウ、シュンラン、センボンヤリ

夏～秋 シラヤマギク、アキノタムラソウ、ヤマハッカ、ヒヨドリバナ、キッコウハグマ

低木については多くの種類が出現している。残せば落葉樹らしい階層

構造のある二次林になる。

Q. 〈作業量とマンパワー〉間伐の進捗が十分でないのに、

新たに林床管理が、できるのか？

A. マンパワーが足りないなら、部分的な管理をする選択もある。目標に対して管理の頻度と人員、面積などの配分を考える。

Q. もともとのシード(種子)がない、落ち葉が多いという話だったが導入しかないのか？

A. 導入という手法は慎重なほうがよい。落ち葉かきを 12 月にするだけで、林床はかなりかわるのでは。観察路沿いで掻いてみるなど労力を配分する。ちょっと落ち葉を掻いて、様子を見て、必要ならば導入の検討という段階を踏むことがいいのでは。

Q. 複層林化するのにカブ森で適当な樹種は？

A. 低木の落葉で実があるものならガマズミ、ザイフリボク、コバノガマズミ、カマツカなど。

Q. C地区のケヤキはクヌギの代替にならないか？

A. 植栽由来の落葉樹をどう位置付けるかによる。常緑樹を伐ることを優先し、ケヤキは残していいのでは。

Q. アカマツ林のキキョウの種子をもちかえって撒き、発芽している。いつ導入すると活着するか？

A. 今 10 cm 高なら来年花がつく可能性あり。再来年戻すと、根がより大きくなっているので、活着しやすいかも。春先 3 月ころ戻し、水をやる。



活動から出た疑問へ専門家の知見、皆の考えを受け、活動に還元する、森会勉強会らしい時間でした。正式にはうん・えー会に諮り、施設とも協議し活動をすすめますが、早くも柏陵高校の皆さんから作業の申し出をいただきました。指導いただきました須田先生に厚くお礼申し上げます。(世話役 篠原慶規 柴戸慶子)